

ウナギ・ヒラメ

無投薬で養殖

宮崎大など実用化に成功

宮崎大学農学部の前田昌調教授は二十八日、無投薬でのウナギとヒラメの養殖を実用化したと発表した。有用微生物（善玉菌）を用い、病害微生物（悪玉菌）を防除するのが特徴。この養殖法を県内へ導入することで、「無投薬養殖魚としてブランド化できる」（前田教授）とみている。

県水産試験場と佐土原養鰻漁業協同組合が共同で研究した。ウナギの場合、代表的な病気であるエドワジエラ症で死ぬケースが多いが、ワクチン開発が難しいという。今回、微生物アルテロモナスの一種が同症を引き起こす悪玉菌を排斥する作用があることを発見した。

宮崎県佐土原町のウナギ養殖場で実験したところ、有用微生物を混ぜた餌を与えた池の死亡率が二・五%だったのに対し、同微生物を与えない池は一八%だった。ヒラメでも別の有用微生物を用い、同様の実験結果が得られた。県内で養殖が盛んなウナギについては、佐土原の組合や県などを通じて微生物を供給する計画だ。